

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500764		
法人名	医療法人 牧山医院		
事業所名	グループホーム・虹		
所在地	長崎県大村市黒丸町1653-1		
自己評価作成日	令和5年10月7日	評価結果市町村受理日	令和5年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が診療所の為、医師、看護師との連携がとりやすく、充実した医療を受けながら生活を送ることができます。
 同じ法人内の作業療法士から3か月に1度、指導を受け、毎日機能訓練を行っています。
 協力関係の歯科医院が毎月訪問し、口腔内に対しての助言及び指導を行っていただいています。
 地域の消防団と一緒に訓練を行ない、避難時の連携体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの母体が診療所であり、緊急時には医師や看護師に相談でき、入居者、家族はもちろん職員も安心して介護を実践し、入居者は日々の生活を安心して過ごすことができている。法人内の作業療法士が定期的に訪れ、連携・協働することで、ラジオ体操や音楽に合わせてリズム体操をしたり、廊下を歩いて体を動かす機会を設けたり、食事前の嚥下体操を実施し、病状を悪化させない取り組みが行われている。新型コロナウイルスが5類へ移行した後は、感染対策を行いながら居室での面会が可能となっており、できる限り柔軟に対応し家族の要望に寄り添いたいというホームの姿勢が窺え、家族アンケートからも感謝の言葉があがっている。ホームは大村市の認知症ホットライン事業に参画し、地域住民の相談窓口、および相談対応を行うなど地域に貢献しており、地域に根差したホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体が医療という安心感の下地域の中で私らしく生きるという理念のもと、母体が医療という強みを活かし、利用者様が安心して家庭的に過ごせるように医療との連携を行なっている。	母体が医療という安心化の下、私らしく生きるという理念をリビングに掲示し実践につなげている。	リビングに理念を掲げ、職員の目に入りいつでも確認できる。職員は理念を念頭に入居者一人ひとりのペースに合わせ、家庭的な雰囲気の中で一日を過ごせることを大事にしている。また、母体が医療という強みを生かし、入居者や家族に安心感を与えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。 回覧板で、地域情報を収集して、入居者様が閲覧できるように壁に掲示している。 二ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、ご意見や質問があれば、その都度対応している。	運営推進会議を開催し、ご意見や質問があればその都度対応している。 床屋さんに訪問して頂き、散髪してもらい、地域の方とつながりながら過ごしている。	ホームは自治会に加入し、清掃活動など参加している。職員が地元消防団に加入し、年に1度合同で避難訓練を実施している。コロナ禍前は敬老会に婦人会の方が慰問に訪れたり、ホームから出向いて介護の講話をしたこともあった。現在、大村市のホットライン事業に参画し、地域の相談窓口としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二カ月に一回、運営推進会議を行ない、町内会長・老人会会長・民生委員に施設での活動や支援の状況を発信している。 大村市が行なっている【認知症ほっとライン事業所】の登録申請を行ない、地域の方が相談できるように運営推進会議等を通して、地域の方に発信している。	高校生の職場体験や実習を受け入れ、認知症の人の理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回、運営推進会議を開催し、頂いたアドバイスを基にサービス向上に向けて改善を図っている。	2カ月に1度開催し、近況報告を行なっている。 ご意見があった際は、反映できるよう努めている。	運営推進会議のメンバーは市の担当職員、町内会長、老人会長、知見者、家族代表で構成している。運営推進会議は2カ月に1回開催し、ホームの状況報告、職員の異動、事故報告、身体拘束適正委員会の報告等を行っている。各メンバーと意見交換を行い、サービス向上に活かすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して情報共有や助言を頂いている。 また、日頃から密にメールや電話で連絡をとり、わからないことがあれば、その都度尋ねている。 定期的に大村市の相談員が訪問している。	市町村担当者とは日頃よりメールや電話で連絡を密にしている。 大村市のホットライン事業に参加している。	運営推進会議のメンバーとして市担当者へ参加を依頼し、意見や助言を得ている。大村市のホットライン事業に参画し、地域住民の相談窓口の役割を担っている。生活福祉課のケースワーカーが訪問した際には入居者の状況を伝えるなど日頃より連絡を密に取るよう努めている。市主催の各種研修会に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、防犯上の為、玄関の施錠を行なっている。 身体拘束については、毎月話し合いの場を設け、拘束が適切かどうか検討している。また、スピーチロックゼロ運動を掲示して、言葉による拘束をしないように心掛けている。	転倒防止の為、感知センサーは家族の了解を得て使用している場合があるが月1回のミーティングで話し合いをし、不必要なセンサーは外すようにしている。	ホームの壁に「スピーチロックゼロ運動」を掲示し、職員が言葉による拘束をしないよう意識し実践に繋げている。身体拘束適正委員会を毎月開催し、運営推進会議においても報告している。玄関は日中施錠せず、玄関にセンサー設置や、見守りにて対応し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	令和3年度介護報酬改定に係る基準等の変更に伴う虐待の防止のための措置に関する事項に関し、令和6年3月31日までに運営規程に定めることが求められているため、今後、運営規程に「虐待の防止のための措置に関する事項」を明記し家族へ説明して取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や排泄介助の際にボディチェックを行い、早期発見出来るように努めている。	日頃より利用者様を観察し、入浴介助や排泄介助の際にボディチェックを行い、早期発見に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年配の遠戚の方がキーパソンの場合は、契約時に説明している。 相談の窓口が管理職やケアマネの為、すべての職員が制度について学ぶ機会は持っていない。	インターネットにて学ぶ機会を持っている。 研修はできない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時や改定があった際には、管理者が説明し、理解して頂いた後に書面での手続きを行なっている。	契約、解約などの際、利用者様やご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。意見や要望は、実現可能であれば、運営に反映させるように努めている。事業所に相談しても解決できない場合や相談できない場合は、外部の相談窓口がある事を契約時に説明している。	ご家族が利用料の支払いや面会時に利用者様の状況を報告している。ご意見や要望があれば、話を聞かせていただき、運営に反映させている。玄関先に意見箱を設置している。	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議の中でも家族の意見や要望を聞く機会を設けている。家族の要望がきっかけで、職員の顔と名前が分かるようにリビングに写真入りの職員紹介を掲示しており、入居者や家族の意見の反映に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務申し送りや月一回のミーティングの際に意見交換や情報共有を行ない、業務内容の改善につなげている。 月1回、代表者と管理者が集まり、意見交換や情報共有を行なっている。	毎日の申し送りや月1回のミーティングで意見を出し合い、反映している。	毎日の申し送り、月1回のミーティングや申し送りノートを活用し、職員が意見や提案を言えるしくみを構築している。職員のアイデアで、居室からトイレまでの道順が分かるように廊下に黄色のテープで印をつけるなど、ミーティングで入居者のケアに関し活発な意見が挙がり実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する時に、希望を聞き、勤務を各自の生活状況に応じて作成している。 毎月評価を行ない、処遇改善手当を支給している。 職員が向上心を持って働けるように研修の参加を促し、スキルアップに繋がるように努めている。	勤務表作成前に予め希望休を聞き、できる限り、職員の生活状況に応じて作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、職員の希望や勤務年数に応じて受講の機会を提供している。 内部研修については、年3回、法人全体で行なっている。	院内研修はコロナ禍の為、書面で行なっている。 外部研修の機会をもうけ、勉強の実施をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一回、大村市グループホーム連絡協議会で事例検討を行ない、意見交換を行なっている。	2か月に1回、GH連絡協議会に出席し、意見交換、勉強会などを行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境を作り、入居者様の言葉に傾聴してアセスメントを行っている。 困っている事や不安な事、要望等を把握できるように記録に残し、普段から良好な関係が築けるように努めている。	利用者様が困っていることなどを傾聴し、アセスメントを行い、安心して生活していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安な点や要望等を聞き、一緒に入居者様を支えていけるように努めている。	ご家族の要望など細かく耳を傾け少しでも希望に沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が入居者様や家族様から聞き取った内容を他職員と共有し、その時必要としている支援を見極めるように努めている。	ご家族の要望など細かく耳を傾け少しでも希望にそえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、調理等のできることを職員と一緒にこなしている。	掃除や洗たく物干し、たたみなどできる方には、支援しながら手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院に受診する際は家族様に付き添っていただいたり、面会時に食事介助をお願いしたりしている。	外出や他科受診をご家族にお願いすることがある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症による面会の制限が緩和された為、知人やご近所の方が居室で面会できるようになった。	友人や知人の方を面会し関係が途切れないよう支援に努めている。	コロナ禍により面会制限を行ってきたが、現在は一部緩和し、居室内への入室が可能となった。家族以外に、昔の同僚や以前住んでいた場所より知人が訪れることもある。家族の協力を得て墓参りなどができるよう支援し、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように職員が声を掛けたり、難聴の方には、職員が間に入り、利用者様同士の関わりが持てるように支援している。	利用者様同士の関係を把握し趣味が合えば一緒にたのしんでもらえるよう支援している。 利用者様同士の会話が円滑に進むように職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、いつでも相談に応じられるように関係性を断ち切らないように努めている。	退所された方に対しても他事業所への情報提供を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いを傾聴し、本人が出来る範囲内で自己選択の下、支援している。 困難な場合は、ミーティング時等に他職員と相談したり、家族様の意向を尋ねたりして、出来る限り入居者様本位の支援が出来るように努めている。	利用者様の思いに傾聴してできる限り支援できるよう努めている。	職員は入居者の日々の会話の中で思いを汲み取り、生活歴など家族から聴き取ったことを職員全員でしっかり把握し、共有して支援に活かすよう努めている。 難聴の入居者にはホワイトボードを使用するなど円滑にコミュニケーションをとれるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や家族様に尋ねて、出来る限り在宅時の暮らし方に近づけるようにしている。 自宅より馴染みの物を持ち込んで頂き、入居者様に合わせた生活環境を整えるように努めている。	一人ひとりの生活歴などを把握しより良い暮らしができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を活かし、出来ない部分を支援し、心身の状態も含めて支援した内容を個人記録に残している。申し送りやミーティング時に職員間で情報の共有を行なって把握するようにしている。	一人ひとりの個人記録にに残し、職員全員で譲歩共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のミーティングで話し合いを行ない、毎月モニタリングを実施している。利用者様や家族様の意向とモニタリングの結果をケアプランに反映するようにしている。 状態が変化し、必要な支援に変更があれば、その都度プランの見直しを行っている。	毎月モニタリングを行い、チームで話し合いし、現状に即した介護計画を作成している。	月に1回の職員ミーティングにおいて、入居者へモニタリングを行い、介護計画に反映している。年に2回、介護計画の見直しを行い、家族には電話や面会時に意向を確認している。介護計画は個人記録の中に綴じてあり、常に職員が計画の中の支援内容を確認することができ、職員は計画作成担当者へ入居者の日頃の様子をこまめに伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って記録を記入し、申し送りやミーティング時に情報共有を行なって、ケアプランに反映させ、実践するようにしている。	個人記録に日々の様子やケアの実践、結果、気づきなどを記入し職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の思いや家族様の要望を聞き、対応出来るように努めている。	利用者様の思いや家族等の要望を聞き、できる範囲内で対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容サービスを使用している。近隣の高校から職場体験や実習を受け入れて、学生と話す機会を作っている。	コロナかの為、以前のようにボランティアの慰問等にはできないが、高校生の職場体験や実習を受け入れている。出張床屋や歯科往診に来ていただき安全に楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の診療所に、情報共有を行ない、医療職と連携するようにしている。かかりつけ医の指示の下、他科受診を行なっている。	母体の診療所にて受診し、医師と相談し、皮膚科や泌尿器科など適切な医療を受けられるよう支援している。	母体の診療所(内科)、歯科、薬局より定期的に訪問診療を受け、関係機関との連絡を密に行っている。他科への受診に家族が同行対応できない場合には職員が対応している。家族が受診に同行する場合は入居者の現状を伝え、薬などの変更があった場合は職員間で情報共有するため連絡帳に記載している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回往診があり、日々の介護記録やバイタルチェックを通して利用者様の様子を報告している。体調の変化等があればその都度、かかりつけ医に相談している。	利用者様の変化や気づきがあれば職場内の看護師に伝え、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、実態把握表を作成して情報共有を行なっている。定期的に面会に行っている。	安心して治療ができるよう病院関係者との条項間や相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り介護について説明し、入居者様、家族様の意向を尋ねている。 重度化した場合は、かかりつけ医と家族様と一緒に方針を決めるようにしている。	入所時に本人や家族に意向を聞き、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し支援に取り組んでいる。	入居時に、本人及び家族へ重度化した場合のホームの対応を十分に説明し、本人及び家族の意向を聞き同意を得て事前確認書を交付している。母体が医療機関であり医師や看護師と連携した医療行為も可能である。	入居時に重度化した場合や看取り支援に関する説明を行い、事前確認書に同意を得て交付しているが、入居時のみの交付となっているので、今後、重度化し看取り期となった場合にも意思確認を口頭だけではなく、再度、意思確認した文書として書類を取り交わし残しておくことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体が診療所なので知識を持っている職員はいるが、定期的に訓練は出来ていない。	院内研修にてAEDの使用方法を学んだが、訓練は定期的に行っていない。職員一人ひとりが使用できるよう実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回避難訓練を行なっている。内一回は夜間を想定して、地域の消防団と一緒に訓練を行っている。 毎日、自主点検を行なっている。	年2回、避難訓練を実施し、全職員が身につけるとともに地域との協力体制を築いている。	避難訓練は夜間想定を含め消防署の立会いの下、定期的に行っている。職員も地域の消防団に加入して地域と馴染みの関係を作り、年に1回は消防団と合同で訓練を行うなど地域との協力体制を築いている。入居者の居室の入り口の表札には「車いす」など避難方法が表示されており、安全に避難誘導できるよう工夫している。	現在、BCPの策定を進められており、今後、BCPの策定と共に研修の実施、訓練(シミュレーション)の実施を進めることを期待する。また、備蓄品について、リスト化して賞味・消費期限などを管理できるよう整備し、更なる災害対策を強化する取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重して声掛けを行なっている。 また、プライバシー関わることは、他の入居者様に話さないようにし、申し送り時、他者に聞こえる場合は、名前を出さないようにしている。	ていねいに優しい声掛けを心がけている。	入居者の基本情報などを職員はしっかり読み込んで入居者を理解し、一人ひとりに合った声かけを実践している。チーム全体で「スピーチロックゼロ運動」を実践している。居室にあるおむつやリハビリパンツはクローゼットの中に収納するなど入居者のプライバシーや羞恥心に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、決定をして頂くように声掛けを行なっている。 また、話しやすい環境作りを心がけ、入浴時など一対一になる時は、ゆっくり話を聞くようにしている。	できる範囲で、本人で意思の決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ、心身面に配慮しながら入居者様本位の支援が出来るように努めている。	その方のペースで声かけして介助等を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服の準備ができない入居者様には、好みの服を選べるように支援している。	自ら整髪できない方には介助している。更衣の際、同じ服にならないよう選択していただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	似たようなメニューが続かないように気をつけ、食べたい物を取り入れるようにしている。 利用者様が出来る範囲内で手伝いをして頂いている。	利用者様の食べたい物を聞き提供している。 できる方には、おぼん拭きをしていただいている。	食事はホームの手作りで、肉や魚などをバランスよく調理して提供している。職員は入居者と一緒にテーブルやお盆ふきなどを行っている。毎月1日は赤飯を献立に入れたり、誕生日には本人が好む料理を食卓に出している。嗜好調査を入居時に行い、「もう少し、硬いご飯を食べたい」などの要望があれば個々に対応している。コロナ禍前は回転寿司店などに行き外食することもあった。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録している。 アレルギーがある方には、代替え食を提供している。 食事量や水分量が減っている方については、家族様に好みの物を尋ねたり、かかりつけ医に相談したりしている。	食事量や水分量を一人ひとり記録に残している。 水分量が少ない方には好みの飲み物を提供し、水分を摂っていただくよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない、出来ない部分は支援している。 月1回歯科往診があり、口腔内の清潔保持に努めている。 週二回義歯消毒を行なっている。	毎食後、口腔ケアを行なっている。できない方には介助している。 毎月、歯科医師が往診時に指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握している。排泄の習慣がない方は、定期的に声掛けを行ない、失敗しないようにしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレの声かけを行なっている。	職員は排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレへの声かけ・誘導を行っている。オムツの方も日中はリハビリも兼ねトイレで排泄するよう支援している。夜間のみポータブルトイレの使用者がいるが、ポータブルトイレは毎日洗浄、消毒を行い、使用しない場合はカバーをかけるなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入して、排便の管理を行なっている。 便秘時には水分量を増やしたり、乳製品を摂取したりしている。	便秘の方には、バナナや乳製品等を提供したり、運動の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に二回、利用者様のペースに合わせて、入浴している。体調が悪い方や気分が乗らない方は、日にちをずらしている。	入浴の声かけを行い、気分不良の際には、その方にあつた対応をしている。	週に2回午前中に入浴を支援している。入浴を拒否する入居者には、一番風呂に誘ったり、家族に依頼して入浴を促してもらうなどその方に合った声かけを行い、気持ちよく入浴してもらえるよう工夫している。体調不良時など入浴ができない場合は清拭や更衣など適宜対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅から馴染みの物を持参したり、居室内の温度を調整したりして、気持ち良く眠れるように支援している。また、昼夜逆転しないように心掛けている。	一人ひとりの生活習慣に合わせて気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携の薬局が管理し一包装してもらい、個別に薬箱に準備してもらっている。処方箋の度に薬剤情報提供書を貰っている。処方箋の変更等があった場合は、職員間で情報共有するように努めている。	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し服用の支援と日々の症状の変化の確認に努めている。新しい薬が処方された際は、薬剤師から説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方が出来る範囲内で一緒に家事を行なっている。誕生日では、その方の食べたい物を尋ねている。	コロナ禍でドライブや外食等はできないが、お誕生日会や花祭り、敬老会等の際に利用者様に喜んでいただけるような食事を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	裏の畑や近所を散歩したりしている。遠出をする場合は、かかりつけ医に確認した後、感染症の対策をして出かけていただいている。	コロナの規制が緩和され、家族と外出する機会が増えてきている。	職員の買い物時や、受診の帰りなどを利用して外出する機会を設けている。また、家族の協力の下、外食や買い物、墓参りなどを支援し、本人の希望を実現できるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、自分で管理してもらっている。できない方については金庫に保管し、必要時に応じて使用し、出納帳に記入している。また、領収書と出納帳のコピーを四ヶ月に一回、家族様に郵送している。	金庫にて一人ひとりのお金を預かり管理している。必要な物がある場合は買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯で自ら電話される方もおり、操作で分からない時は、職員が操作している。年賀状を送ったりしている。	電話したいと希望された際はすぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、毎日掃除を行ない、不快にならないようにしている。日中は、外光が入るようにカーテンを開け、眩しくないように外光の調整を行なっている。季節を感じれるように、その季節にあった飾り付けを壁にしている。	共用の空間は毎日消毒、清掃し清潔を保つよう心がけている。季節感を採り入れ、壁紙等工夫している。	毎日、共有スペースの清掃を行っている。常に換気を行い、空気清浄機も使用している。洗剤や薬剤は入居者の手の届く場所には置かないよう留意している。リビングの壁には季節感を採り入れた飾り付けを施している。2階のリビングには畳のスペースがあり、入居者がゆっくりと寛いでいる姿が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム・虹1階)	実践状況(ユニット名:グループホーム・虹2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、椅子、ソファなどを配置し、思い思いに気の合う利用者様同士でくつろげるようにしている。	気の合った利用者様同士で楽しく過ごせるような席の配置の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に入居者様や家族様と相談し、使い慣れた物を持ち込んでもらい、本人が居心地よく過ごせるように配置している。 入居者様から要望があれば、模様替する。	ご本人様やご家族の写真や使い慣れた物を持って来られている。	居室の清掃は毎日職員が行っている。 入居時には入居者本人が使用していた家具や位牌、仏壇なども持ち込むことができることを本人や家族に説明している。 居室に本人や家族の写真を飾ったり、本人の希望により模様替えを行うなど、その人らしい居室づくりを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室・トイレ等に手すりを設置し安全に過ごせるよう努めている。また、利用者様が自室やトイレの場所を把握できるように、名称の貼り紙等をしている。	居室やトイレの場所が覚えられない利用者様のために目印を作ったり工夫している。		